MAENAN SAH Journal Vol.21

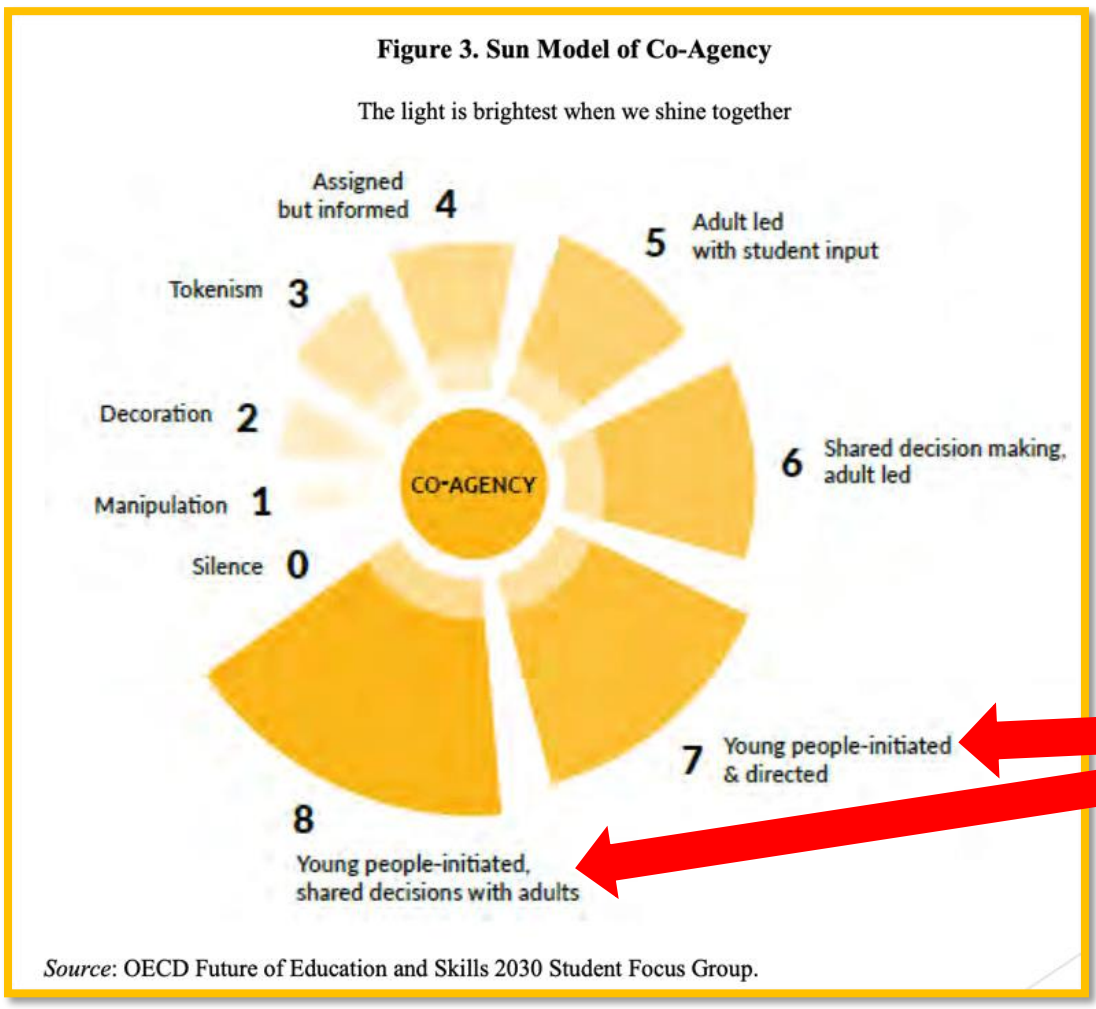
～『自分で考え、判断し、行動できる生徒の育成』をめざして～ Nov. 16th, 2023

★『共同エージェンシーの太陽モデル』と本校の取組について★

日本の教育は他国と比較しても、『教科への依存度が高い』と言われており、教科教育のレベルは非常に高いのですが、それだけで『完成された人格』が形成されるとは言い切れません。『偏差値の高い大学を卒業』したとしても、それだけでは『社会で活躍する』ことは残念ながら約束されません。

私たちが目指す『生徒エージェンシー（生徒の主体性）』は『アイデンティティー』と『所属感』の発達に関連しています。生徒の『エージェンシー』を育むとき、生徒は『モチベーション』『希望』『自己効力感』、そして『成長する思考態度』を支えとして『ウェルビーイング』の方向へと指針を合わせます。こうすることで生徒は『目的意識』を持って行動することができ、『社会に出て活躍できるようになる』と言われています。

生徒と教師との関係で言えば、通常の授業では、『教師が設定した問題』を生徒が考え、『答えを知っている教師』と『答えを知らない生徒』が向き合う形になりますが、『探究の授業』等で取り扱う『環境問題』や『社会問題』などの『答えのない課題』に対しては、いずれも『答えを知らない教師と生徒』がタッグを組んで答えを見つけなければならないことになります。ここでは課題に対して教師と生徒は『同じ立場』にあり、互いに試行錯誤し、信頼関係を築き、課題解決の方法を創り出すわけです。教師とは『教える立場』にあるわけですが、そうではなく、生徒の成長を『促進させる役割』を意識すべきなのです。



左の図は、2018 年に『OECD 生徒フォーカスグループの生徒たち（10 ヵ国から任意でラーニング・コンパスの発展のかじ取りを助けることに加わり、かつそれぞれの国からその活動を行うために選出された生徒たち）』が作成した『共同エージェンシーの太陽モデル』と呼ばれるものです。”Sun Model of Co-Agency（太陽モデル）”というタイトルの下に”The light is brightest when we shine together”と書いてあるように、『共同エージェンシー』の段階が高まれば高まるほど、輝きは増す、という意味も込められています。下には『共同エージェンシーの各段階』の『日本語の解説』を載せました。

『共同エージェンシー』のすべての段階には『大人との協働』が示されています。『0_沈黙』の段階では、大人がすべての活動を主導し、すべての意思決定を行うのに対して、若者は沈黙しています。これでは生徒の成長はありません。しかし、最初の 3 段階（『1_操り』、『2_お飾り』、及び『3_形式主義・形だけの平等』）では、生徒は意思決定に貢献できているように見えますが、実際にはそうする機会を与えてもらえないことを指しています。生徒はこの段階に留まってはいけません。

本校では『7_若者が開始し、方向性を定める』『8_若者が開始し、大人とともに意思決定を共有する』の段階まで目指したいと考えています。そうなるように私たち教師は生徒に『寄り添い』ながら『ともに考え』『生徒の資質・能力を促進させる役割』を担っていきたいと考えます。嬉しいことに、わずか半年の間に、すでに『生徒会』や『各種委員会』『部活動』『生徒有志』によって『0 から立ち上げた企画』が実行されたり、計画が始まったり、議論が始まっています。

0	沈黙	若者が貢献できると若者も大人も信じておらず、大人がすべてを主導し、すべての意思決定を行うのに対して若者は沈黙を通す。
1	操り	主張を正当化するために大人が若者を利用し、まるで若者が主導しているかのように見せる。
2	お飾り	主張を助ける、あるいは勢いづけるために大人が若者を利用する。
3	形式主義・形だけの平等	大人は若者に選択肢を与えているように見せるが、その内容あるいは参加のしかたに若者が選択する余地は少ない、あるいは皆無である。
4	若者に特定の役割が与えられ、伝えられるだけ	若者には特定の役割が与えられ、若者が参加する理由や参加の方法は伝えられているが、若者はプロジェクトの主導や意思決定、プロジェクトにおける自分たちの役割に関する判断には関わらない。
5	若者からの意見を基に大人が導く	大人はプロジェクトの設計に関して若者の意見を求め、その結果について報告をするが、大人がプロジェクトに関する意思決定を行い、プロジェクトを主導する。
6	意思決定を大人・若者で共有しながら、大人が導く	大人が開始し、進めるプロジェクトの意思決定に、若者も参画する。
7	若者が開始し、方向性を定める	大人の支援を借りて若者がプロジェクトを開始し、方向性を定める。若者は大人の意見を聞いたり、若者が意思決定しやすいように指針やアドバイスを与えたりするが、最終的にすべての意思決定は若者が行う。
8	若者が開始し、大人とともに意思決定を共有する。	若者がプロジェクトを開始し、意思決定は若者と大人の協働で行われる。プロジェクトの主導権や運営権は若者と大人の対等な立場の上で共有される。

生徒たちが『既存の高校生活』だけで終わらずに『自分たちで作り上げた高校生活』を過ごせたという経験が、きっと『社会に出たあと』でも役に立つと信じています！みなさんが『始める』ことが大切です。そこに『価値』が生まれます。『成功や失敗』は『2 次的』なものに過ぎません。文責：星野　亨（教頭）

★校長より★

「ん？　アンモナイト？」と、図３の『共同エージェンシーの太陽モデル』を見て勝手に思ってしまった。似てませんか？『８』が住房で、『０～７』が気房だと思えばまさしくアンモナイトだ。あえて今、この形を理想的と考えよう。アンモナイトには理想的な「ぐるぐる」とは異なる、「チョココルネ」や「バネのばし」のような形をした、異常巻きアンモナイトがあるのをご存じだろうか（知らない人は調べてみて）。今の前南生をこの『０』から『８』の部屋に入れたら異常巻きアンモナイトができるでしょう。嬉しいことに、既に『７』や『８』に近づいた前南生もいます。前南は、住房に属する生徒を増やす（理想的なアンモナイト）ことに力を注いでいるのです。

校長　関根　正弘